

●『「ゆとり」批判はどうつくられたのか——世代論を解きほぐす』

著者：佐藤博志・岡本智周

発行：太郎次郎社エディタス／2014年10月

価格：本体1,700円＋税

判型：四六判・並製、192頁

ISBN：978-4-8118-0778-2

【内容紹介】

1990年代末以降、「ゆとり教育」が正当な理解を得られずに批判されたことにより、その教育を受けた若者たちが「ゆとり世代」というラベルを貼られ、社会のなかでネガティブに評価されるようになりました。そして、どの世代にも見られたような若者の一般的な特徴までもが「ゆとり教育」の帰結だとされ、教育論と世代論における無根拠な「ゆとり」批判が互いに参照し合う、不毛な言説が重ねられています。

こうした教育批判は、教育が社会の変化に対応するとともに次の社会を作り出していくというサイクルを、押しとどめる力を帯びたと言えるでしょう。本書はそれに対して、まず1980年代以降に社会の側が「ゆとり」を要請していた事実を再構成します。また、これからの社会にこそ「自立し共に生きる力」を中軸にした教育コンセプトが不可欠となることを示し、「ゆとり」批判の言説構造を解きほぐしていきます。

「ゆとり教育」と称されて批判の対象とされた教育施策について、それが本来有している「スコレー」としての意味と意義を提示するのが、この書籍です。

【出版社の書籍紹介ページ】

太郎次郎社エディタス：<http://www.tarojiro.co.jp/product/5227/>

太郎次郎社エディタス（ニュース）：<http://www.tarojiro.co.jp/news/5235/>

【著者紹介】

佐藤博志（筑波大学教育学域准教授）

岡本智周（筑波大学教育学域准教授）

